

## ～「虹は7色」は日本だけ！？～

梅雨真っ只中からそろそろ終盤に向かおうとしています。  
雨上がりの虹を見ると何か得した気分になりますが、その虹について面白い話題を見つけましたので、今回取り上げてみます。

### <虹の仕組みや原理>

虹の色は「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色。  
これは日本では常識ですが、世界ではそれが  
非常識・・・らしいです。

アメリカやイギリスでは一般的に6色と言われて  
おり、藍色を区別しません。

ドイツではさらに橙色も区別せずに5色となり、  
南アジアでは暖色と寒色のみ（あるいは明・暗  
など）で2色という部族もあるのだとか。

虹というのは、大気中に浮かんでいる微小な水滴  
の中で太陽の光が屈折して生じます。

水滴がプリズムの役目をするために、光が赤から  
紫の色の帯に見え、屈折率の違いから、外側から  
赤～紫の順番になっています。

同じように虹を見ていても、7色、6色、5色…  
…2色など色数が違うのはなぜなのか？

虹は連続して変化した色の帯で、はっきりとした色の境目があるわけではなく、これを何色ととらえるのかは、その国の文化によって異なるからだそうです。そもそも“色の認識のしかた”が違ったり、“色に名前がついていなかったり”すれば、色を識別しようとも思わない・・・といわれれば納得感があります。

日本の色に対する感性は実に繊細だと思います。

例えば、茶色や鼠色でさえ何十種類もの色名があり、「団十郎茶」「路考茶」など70以上の茶が、「梅鼠」「藤鼠」など各色相の鼠色があることから「四十八茶、百鼠」と言われているそうです。

豊かな色彩感覚を育んできたことがわかります。

色の違いは無限ですので、微妙な違いを的確にとらえて楽しもうとする日本人の感性が、虹を見つめるまなざしにも息づいているのでしょう。

日本でお馴染みの「藍色」が、7色と6色を見分ける差になっているのも頷けます。



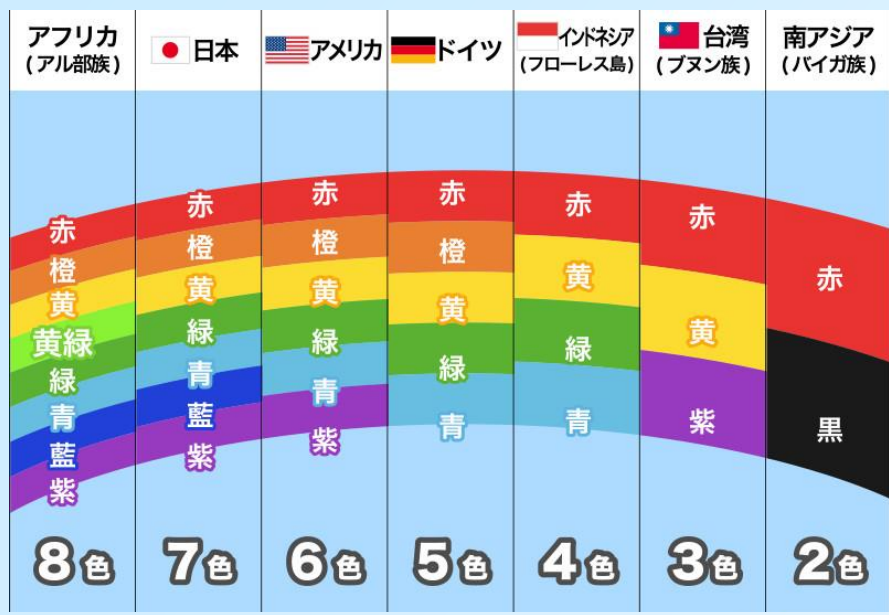
#### 「朝虹は雨、夕虹は晴れ」

虹は太陽を背にしてできます。  
朝の虹は西のほうで降る雨に東から太陽があたってできるため、やがて東のほうで雨になる前兆。

夕方の虹はこの逆で、雨は既に去っており晴れの前兆…という日本のことわざです。



ちなみに、色彩学上の定義は“ニュートンによる7色”です。  
 学者によっては「虹を肉眼でもめても4～6色にしか識別できないはず」との意見もあるようですが、このニュートンの説を日本人が鵜呑みにしたんだと指摘する声もあります。



左図は、  
 国によっての色数をわかりやすくしたものです。  
 なんと、アフリカのアル部族は日本を超える8色！

## <主虹と副虹がある??>

～主虹と副虹でワンセット 色の順番が逆な副虹～

虹は2本でワンセットだとのこと。  
 誰もがみている虹を主虹（しゅにじ）と呼び、その外側にひと回り大きい副虹（ふくにじ）ができています。



主虹は太陽の光が水滴の中で1回反射したものです。そして屈折し、2回反射したものが副虹で、主虹と色の順番も反対になります。

主虹の色の順番 = 外側から赤・橙・黄・緑・青・藍・紫  
 副虹の色の順番 = 外側から紫・藍・青・緑・黄・橙・赤

また、副虹はとても光が弱くて薄いため、条件が良い時しか確認できないそうです。副虹は、澄んだ空気の時に見えるようです。

虹が出やすいこれからの季節、一度じっくりとご覧になってみてはいかがでしょうか。

土地や建物の  
 よろず相談やっています！

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～

今後の為に！お気軽にどうぞ！！

マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628



<http://maruhiro2103.co.jp>